プロスポーツ 静岡記念 号外版
PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE

GPチャンプ郡司浩平が主役

静岡競輪場開設73周年記念「たちあおい賞争奪戦」は、2月12日～15日の日程で開催される。今シリーズは郡司浩平、深谷知広、簗田一輝、渡邉雅也とそろった南関勢が優勝争いをリードしそうだが、吉田拓矢、古性優作のSS班も黙ってはいない。百戦錬磨の新田祐大、佐藤慎太郎の福島コンビ、九州勢も山田庸平、後藤大輝、東矢圭吾と戦力は整っていて、一筋縄ではいきそうにない。凱歌をあげて全日本選抜に弾みを付けるのは、果たして誰なのか？

南関の絶対エース・郡司浩平をはじめ、深谷知広、簗田一輝、渡邉雅也の地元勢と、駒数豊富な南関勢がファンの支持を集めよう。軸になるのはもちろん郡司だ。昨年は念願のグランプリを制して最優秀選手賞に輝いた。特にGⅢでは圧倒的な存在感を示していて、6Vを含む31勝、勝率は約6割と素晴らしい成績を修めている。今年は1月和歌山記念[1]②②②着、同月高松記念in小松島[9]①❹着。まだVには手が届いていないものの、危なげなく決勝に乗っていて、順調な滑り出しといっていいだろう。70周年以来となる大会2V目に向けて視界は良好だ。地元勢の中では、昨年に続き大会連覇を睨む深谷が有力な優勝候補。昨年12月に伊東記念で優勝したばかりだし、7月当所は3連勝と、地元ではきっちり結果を出している。郡司との前後は流動的だが、地元戦だけに郡司に前を託し、脚力を温存する可能性のほうが高いか。昨年は後半戦からぐんぐん調子を上げてきた簗田にも魅力を感じる。12月伊東記念1①②❷着では、深谷と3回ワンツーを決めている。準決、決勝はまくりを交わせなかったが、深谷が先行した二次予選は差し切った。南関勢がレースを支配すれば好勝負に持ち込める。

グランプリは好内容の3着だった吉田拓矢は、今年も力強い走りを披露している。1月立川記念[8]②①❷着、同月高松記念in小松島[2]①①❷着と続けて準V。小松島の決勝は、犬伏湧也の逃げに乗った石原颯の番手まくりを乗り越えられなかったが、2コーナーで7番手からまくったスピードは際立っていた。自力勝負でも十分に優勝が狙える状態にあるが、杉浦侑吾とタッグを組めるようなら、展開の味方を得られる可能性も出てくる。今年の杉浦は好調で、1月和歌山記念では2①①❹着と気を吐いた。

郡司、吉田とは対照的に、今年の古性優作は精彩を欠いている。1月大宮記念は[2]③②❸着とまとめたものの、本来の動きではなかったし、1月高松記念in小松島も[6]④⑥①着。最終日は意地の1勝をあげたとはいえ、連日の走りは物足りなかった。ただ、修正能力の高さには定評があるし、この開催の直後には全日本選抜が控えている。大きな変わり身を見せても不思議ではない。

新田祐大、佐藤慎太郎の福島コンビも忘れてはならない。あまり調子が上がってこない新田だが、1月いわき平記念では1①⑤②着と3連対。佐藤の援護は心強いだけに、総力戦を奏功させての連浮上は考えておきたい。

山田庸平に、後藤大輝、東矢圭吾と2枚の先行型を擁する九州勢も侮れない。後藤、東矢ともに、全国各地で先行力を猛アピールしている。ただ、山田は昨年の競輪祭で落車した後は、実戦に姿を見せておらず、体調が気がかり。

浅井康太や河端朋之も動きは軽快で一発を秘める。

たちあおい賞争奪戦 出場予定選手

※2026年2月5日現在のデータです。

級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点
SS	郡司浩平	神奈川	99期	116.44	S1	高久保雄介	京都	100期	102.08	S2	友定祐己	岡山	82期	100.58	S2	近藤夏樹	千葉	97期	94.52	S2	佐藤竜太	愛知	119期	93.46
SS	古性優作	大阪	100期	116.78	S1	久米康平	徳島	100期	101.90	S2	石毛克幸	千葉	84期	104.70	S2	角令央奈	福岡	98期	104.28	S2	徳田匠	京都	119期	97.86
SS	吉田拓矢	茨城	107期	117.53	S1	山岸佳太	茨城	107期	103.80	S2	岡村潤	静岡	86期	103.76	S2	増原正人	広島	98期	95.33	S2	石塚慶一郎	和歌山	119期	97.85
S1	香川雄介	香川	76期	108.00	S1	隅田洋介	岡山	107期	96.13	S2	上吹越直樹	鹿児島	86期	95.67	S2	橋本智昭	宮城	99期	96.68	S2	橋本凌汰	岡山	119期	95.64
S1	佐藤慎太郎	福島	78期	109.64	S1	簗田一輝	静岡	107期	112.47	S2	近藤俊明	神奈川	87期	96.19	S2	本郷雄三	熊本	99期	96.28	S2	米嶋恵介	岡山	119期	98.50
S1	佐々木雄一	福島	83期	105.96	S1	瀬戸晋作	長崎	107期	100.20	S2	山田敦也	北海道	88期	98.69	S2	岡田泰地	栃木	100期	96.95	S2	上野雅彦	香川	119期	97.81
S1	井上昌己	長崎	86期	106.40	S1	野口裕史	千葉	111期	100.53	S2	渡邉一成	福島	88期	103.57	S2	元砂勇雪	奈良	103期	101.80	S2	田村大	宮崎	119期	94.96
S1	柏野智典	岡山	88期	107.73	S1	佐藤礼文	茨城	115期	108.23	S2	松永将	茨城	89期	98.96	S2	渡邉雄太	静岡	105期	98.20	S2	日高裕太	静岡	121期	99.72
S1	新田祐大	福島	90期	107.72	S1	杉浦侑吾	栃木	115期	111.85	S2	山口泰生	岐阜	89期	97.63	S2	野口正則	奈良	105期	95.88	S2	森本桂太郎	愛媛	121期	91.41
S1	浅井康太	三重	90期	113.58	S1	渡邉雅也	静岡	117期	108.48	S2	志村太賀	山梨	90期	104.79	S2	伊藤慶太郎	埼玉	107期	99.58	S2	坂田康季	佐賀	121期	97.42
S1	柴崎淳	三重	91期	104.57	S1	村田祐樹	富山	121期	100.13	S2	金澤竜二	福島	91期	93.21	S2	中西大	和歌山	107期	102.93	S2	立花昌也	青森	123期	91.94
S1	椎木尾拓哉	和歌山	93期	107.50	S1	後藤大輝	福岡	121期	108.04	S2	原誠宏	香川	91期	100.70	S2	蕗澤鴻太郎	群馬	111期	98.28	S2	斉藤樂	宮城	123期	94.40
S1	山田庸平	佐賀	94期	114.50	S1	東矢圭吾	熊本	121期	109.05	S2	小林弘和	佐賀	91期	98.56	S2	平尾一晃	長崎	111期	99.40	S2	神尾敬冬	静岡	123期	91.00
S1	近藤保	千葉	95期	107.48	S1	西田優大	広島	123期	107.95	S2	樫山恭柄	福岡	92期	94.46	S2	後藤悠	岩手	115期	98.86	S2	望月湧世	静岡	123期	93.60
S1	河端朋之	岡山	95期	108.10	S2	川口満宏	東京	58期	92.78	S2	栗田貴徳	愛媛	93期	86.24	S2	鈴木涼介	福島	115期	93.77	S2	棚瀬義大	岐阜	123期	98.84
S1	川津悠揮	北海道	96期	105.93	S2	紺野哲也	宮城	69期	0.00	S2	佐川翔吾	大阪	94期	96.78	S2	小畑勝広	茨城	115期	102.09	S2	青木瑞樹	岡山	123期	100.78
S1	深谷知広	静岡	96期	112.22	S2	金子真也	群馬	69期	94.46	S2	桶谷明誉	広島	94期	85.76	S2	鈴木薫	東京	115期	98.69	S2	橋本宇宙	佐賀	123期	98.04
S1	塚本大樹	熊本	96期	110.56	S2	伊藤正樹	愛知	71期	97.28	S2	佐藤和也	青森	95期	102.87	S2	城戸俊潔	岡山	115期	99.48	S2	川上隆義	栃木	125期	95.94
S1	久米良	徳島	96期	104.27	S2	中井達郎	静岡	74期	89.06	S2	杉本正隆	茨城	96期	105.42	S2	松尾勇吾	熊本	115期	94.00	S2	塩島嵩一朗	神奈川	125期	105.00
S1	久木原洋	埼玉	97期	94.14	S2	小嶋敬二	石川	74期	95.24	S2	城幸弘	山梨	96期	99.50	S2	藤田周磨	埼玉	117期	97.09	S2	伊東佑晟	三重	125期	94.00
S1	原田研太朗	徳島	98期	103.58	S2	佐野梅一	京都	78期	89.43	S2	飯田憲司	静岡	96期	95.25	S2	窪木一茂	福島	119期	105.50					
S1	恩田淳平	群馬	100期	106.48	S2	尾崎剛	埼玉	79期	92.86	S2	松尾透	福岡	96期	98.32	S2	堀江省吾	長野	119期	104.96					

プロスポーツ
PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE
たちあおい賞争奪戦　号外版

堀江 省吾（長野/119期）

今年は快調なペースで飛ばしている。初戦の1月大垣はオール連対の準V、続く同月いわき平記念では2③②❺着と快走を演じた。準決は新山響平を出させぬ好プレー。波に乗っているので、上位戦でも軽視は禁物だろう。

塩島 嵩一朗（神奈川/125期）

1月大宮記念では3①⑧②着と大活躍。次走の同月西武園は予選で飛んでいて、まだ安定感には欠けるものの、快速を活かした自力攻撃は破壊力抜群だ。格上相手でも主導権を握れれば一発の魅力を秘めている。

香川 雄介（香川/76期）

1月高松記念 in 小松島では犬伏湧也、石原颯に食い下がり1②②❼着と気を吐いた。51歳の大ベテランながら目標をつかんだときの捌き、差し脚はしっかりしている。好位置があるレースは連の対象から外せない。

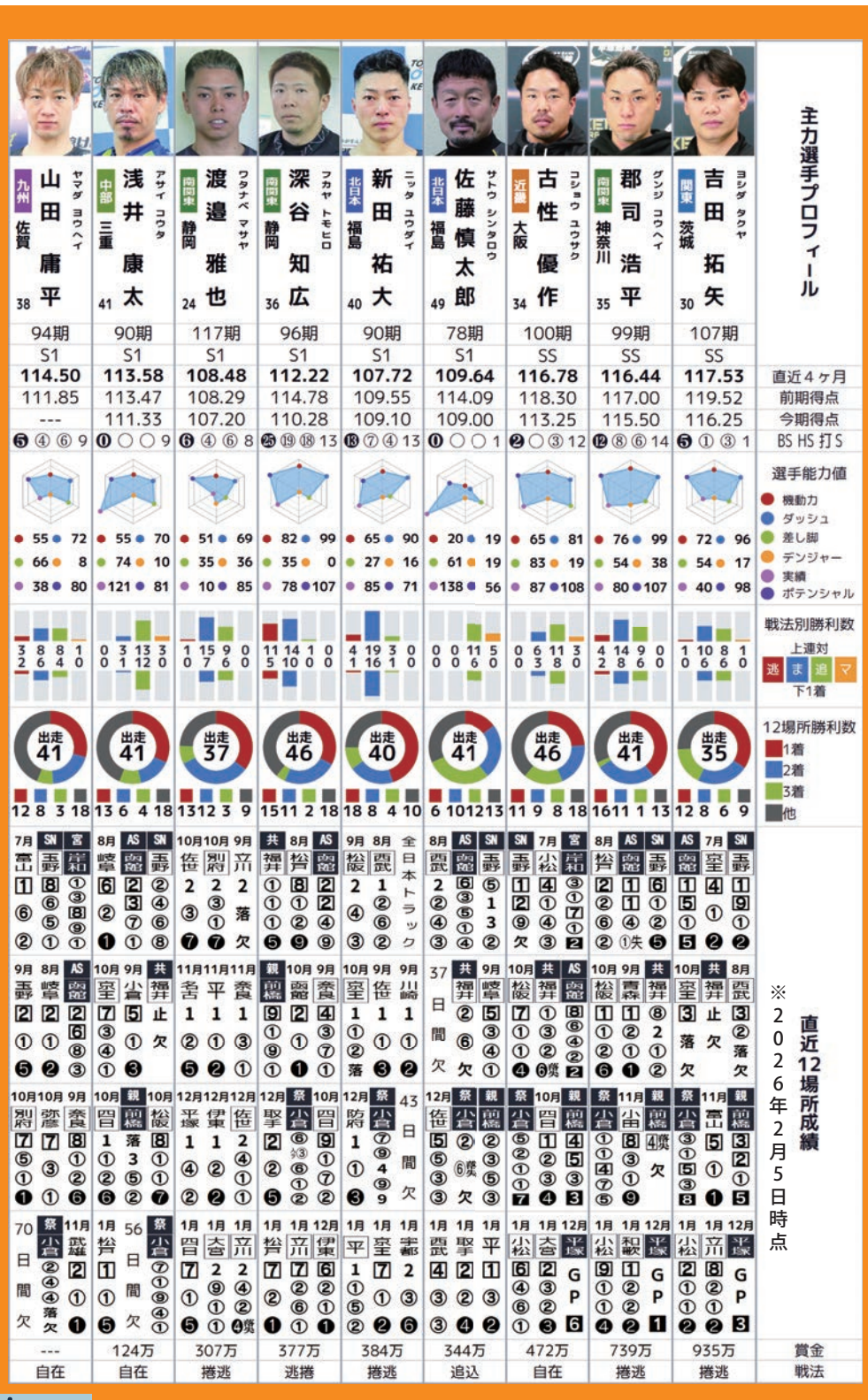
地元地区推奨選手 俺の出番だ!!

日高 裕太（静岡/121期）

持ち味の自力攻撃に一段と磨きがかかった感がある。1月は初戦の和歌山記念で2連対を果たすと、立川1①❹着、小田原3①②着と連対ラッシュだ。今の勢いなら大暴れが期待できる。

渡邉 雄太（静岡/105期）

昨年の11月に落車した影響があるのか、なかなか調子が上がってこないのは気になるが、底力はあるだけに地元記念となれば軽視はできない。快走を演じて流れを変えるか。



CYCLE JKA Social Action
車券の購入は20歳になってから。競輪は適度に楽しみましょう。
競輪とオートレースの売上の一部は、機械工業の振興や社会福祉等に役立てられています。